

会議の概要

令和4年度 第1回

おおたまた学園コミュニティ・スクール委員会

- 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
- 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
- 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和4年5月12日（木）18:30～20:15

場 所：全体協議：1階多目的ホール

グループ協議：幼稚園・玉井小学校 1階多目的ホール、

大山小 2階農事相談室、 大玉中 1階健康相談室

進行…事務局（指導主事 佐久間 葉子）

1 開会の言葉

進行

皆さん、こんばんは。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので、会を進めさせていただきます。

それでは、只今より第1回おおたまた学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会と略記）を始めます。

2 委員の任命・委嘱状の交付

（大玉村教育委員会教育長 渡辺 敏弘）

・新たに任命された委員の代表受領及び学校関係者委嘱状代表受領

区長会副会長	佐原 孝男 氏	代表受領
大山小学校長	齋藤 和久 氏	
玉井小学校長	佐藤 則之 氏	
地域連携担当教員	伊藤 和文 氏	

3 教育長あいさつ

○ 皆さん、改めましてお晩でございます。この4月1日より教育長を務めております渡辺敏弘と申します。どうぞよろしくお願いたします。只今、佐原副区長さんを始め4名の方々に任命書を交付させていただきました。併せて、任期2年目となる委員の皆さん、今年度もどうぞよろしくお願いたします。

○ 大玉のCSも今年度で12年目を迎えます。10年の区切りを過ぎまして、この仕組みもある程度成果が上がってきていると思えますし、学校や幼稚園の子どもたちにとって大きな力になっており、大変嬉しく思っているところです。しかし、今後もこの組織、仕組みが持続可能で効果的なものになっていくためには課題もあると感じております。

○ 本日は資料『コミュニティ・スクール“最終まとめ”』を用意させていただきましたのでご覧いただきたいと思います。5年前に地教行法が改正され、このCSという仕組みを努力義務とするという形になりました。このこともあって、全国でも



CSを導入する地域が増えてきております。近隣でも本宮市が設置しておりますし、県内でも天栄村、磐梯町等様々な地域に広がってきているという実績があります。ただ、この法律の中でも、5年をめどにそのあり方については見直す必要があるのではないかということが明記されていました。

法律が改正されてちょうど5年目を迎えるに当たって、本日の資料に掲げられています通り、有識者の検討会が最終まとめを出しています。概要を申し上げますと、(資料にアンダーラインを引いておきましたが、)CS導入の効果、あるいは、効果的な取組にはどんなものがあるかが記されており、ここをご覧いただくと、本村の仕組みの成果や取組の効果等が重なっているところがあって嬉しく思っています。

逆に今後の課題としては、(右ページ上段に書かれていますが)推進上の課題として、CSがなかなか進まない要因としては、以前からありました学校評議員制度との違いが十分に理解されていないことがあげられています。学校評議員会は、あくまで個人が校長に対して意見を述べる組織です。それに対して、学校運営協議会は、運営協議会として責任を伴って意見を述べるという違いがあるわけですが、そのところの理解が進んでいないのも事実です。あるいは、(本村は特別支援学校のところは除外されるが)一般的に幼稚園は規模が小さいため単独のCS委員会の設置が難しいことも指摘されています。この点については、本村は一体的に運営することで解決していると思います。

また、運営面では、どうしても形式的、定型的な情報や審議により、十分な協議ができていないことがあげられます。この法律ができて、CSを設置しなければならないということで、急遽半強制的に全部の学校で実施するというのを始めた自治体があります。資料にもありますように、「形式的になってしまっていて、実効性が伴っていない」という所もだいぶあると聞いています。また、後にスタートした地域学校協働活動との関係性がはっきりとしていないことも、CSがうまく機能していない原因になっているのではないかとされています。

資料最後の部分の「CSと地域学校協働活動との一体的推進を強く要請している点にも注目したい。両者の連携で学校が地域課題解決のためのプラットフォームとなることが期待され、学校を核とした地域づくりの可能性も展望する。」の記述にもあるように、本村はこれまで10年以上かけて少しずつ熟成・醸成されてきているCS委員会の組織として自信を持っている部分はありますが、そのあたり(CSと地域学校協働活動の一体的推進)に課題が残っているとも考えられますので、今後ある程度時間をかけた中で、そういった効果的な実効性のある組織にできたらいいと考えております。

- 委員の皆さまのお力をお借りして、本村が目指している「みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ 大玉の教育」の実現に向かって進んでいきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

4 CS委員会会長あいさつ

(おおたま学園CS委員会 会長 伊藤 和弥)

改めましてお晩でございます。本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。CS委員会は2年が一つのくりというところで、今年がその2年目です。新しい方もおいではあるわけですが、様々な活動に造詣の深い方々が入られているようで、安心して取り組んでいけるかなと思っております。

昨年度、新型コロナウイルスの影響で、予定していた活動をなかなか思い通りできないこともありました。ただ、その中でも前向きに捉えながら、できるところは積極的にするという姿勢で頑張ってきたつもりであります。大玉のCS委員会も12年目に入り、本当に大玉らしいCSとなってきたのかなと思っております。今年もコロナとの兼ね合いもあるのですが、ぜひともいろいろ予定していることを皆さ



んと協議しながら、意見を出し合いながら進めていきたい、また、熟議を通して学校の課題についても解決の糸口を示せるようなそういう形で進めていければと考えております。今年1年もどうぞよろしくお願いいたします。

5 自己紹介

- ・CS委員及び事務局職員の自己紹介

6 本日の日程、内容、進め方及び諸連絡について（指導主事 佐久間 葉子）

- 申し合わせ事項について
 - ・CS役員会への参加「会長、副会長、校長（園長）」
- 「学校運営協議会の設置等に関する規則」について
 - ・守秘義務を有すること（第6条）
- 本日の日程について
 - ・協議…CS委員会の方針・年間活動計画、地域学校協働活動について、各園・各後ごとの意見交流（経営の重点について、今後のCS委員会での協議内容について）等

7 協議（座長 おおたま学園CS委員会副会長：矢吹 吉信）

（1）令和4年度おおたま学園コミュニティ・スクール委員会の方針・年間活動計画について

① 理念についての再確認

（指導主事 佐久間 葉子）

- ・資料に基づき説明

② 令和4年度の重点について

- ・令和4年度は「地域学校協働本部事業（地域学校協働活動）」との関連を明らかにしながら、以下の項目を重点とする。

- 地域学校協働本部と連携・協働した教育活動を推進し、地域と共に歩む学校の実現、地域コミュニティの活性化等を目指す。
- コミュニティ・スクール委員会における熟議においては、各校・園の経営計画や現状、課題等を共有する機会を設け、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を充実させるための取組を検討する。
- オープンスクール（おおたま学園主催の授業研究会）に、CS委員の皆様も参加し、各校園の学校運営協議会をその当日夕方に行う。このことにより、子ども理解・学校理解のより一層の深まりとともに、それらに基づいた協議の活性化を目指す。
- 学校関係者評価を実施し、学校経営・運営の改善のサイクルがより有効に機能するようにする。
- 第4回おおたまコミュニティ広場（第14回大玉村教育フォーラム）は、保護者、村民の方々が年に1回集い、大玉村の未来について語り合う場として実施する。その際、保護者、村民ができるだけ多く参加できるよう、呼びかけ・周知を図る。
なお、内容・方法については、CS委員会において協議する。限られた時間で協議が深まるよう組織・運営方法を工夫する。
- 学校が主体となって企画するおおたま・オータム・フェスタ（第4回）の運営に参画し、ねらいの達成に寄与する。
- 保護者・地域・住民の参画を促すための情報発信の方法を検討し、工夫を図る。

③ 令和4年度おおたま学園コミュニティ・スクール委員会活動計画（案）について説明

- 6、9、11月実施の各校園主体の学校運営協議会は、オープンスクール（5校時の授業参観）と一緒にやる。そのため、午後から夕方にかけて開催する。（授業参観一事後研究会－学校運営協議会の午後半日の予定）
学校運営協議会には、学校園の運営状況の説明が十分できる体制で臨む。
- 7月5日（火）第3回CS委員会ではおおたま・オータム・フェスタの内容の確認を行う。

- 10月1日（土）のおおたま・オータム・フェスタはCS委員の協力のもと実施。幼稚園は10月14日（金）実施予定。
- 2月に第4回おおたまコミュニティ広場を実施する。（2月18日〈土〉の予定）

（2）令和4年度地域学校協働活動事業計画について（CSディレクター 佐藤 勇人）
 <資料に基づき説明>

- ・事業計画について<4つの柱>
- ・CSと地域学校協働活動の連携及び一体的推進について

（3）各園・各校ごとの意見交換（3会場に分かれて実施）

- ① 各園・各校から（今年度重点的に取り組むこと、お願いしたいこと、その他）
- ② 今後のCS委員会での協議内容について
 - 幼稚園、玉井小学校：1階多目的ホール
 - 大山小学校：2階農事相談室
 - 大玉中学校：1階健康相談室



（4）各園・各校からの報告 ※（3）①②について

（座長）それでは、各園、各校からの報告に移ります。大玉中学校安田校長先生からお願いします。

① 大玉中学校（校長 安田 浩明）

大玉中学校の学校経営・運営ビジョンのキーワードは、「学校経営の基本姿勢と目指す学校像」の中に示してありますように、「大玉プライド」、「地域貢献」、「虹のような学校組織」の3点です。本年度の重点事項等について説明します。

ア 学校経営・運営ビジョン等について

- ◇ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、確かな学力の向上を図る。（知）
 - 同僚性を生かした校内研修の充実（授業の充実を目指す）
 - ・ 1つのテーマで実施。今年度は7つの汎用的思考スキルの活用を図っていく。
 - ・ 中学校では教科の壁があって、他の教科を担当している教員がとやかく言えない雰囲気があるのだが、そうではなくて、やはり同僚として指摘し合って学び合おうという姿勢で取り組んでいきたい。
 - 家庭と連携しながら学習サイクルを確立する。
 - ・ 去年の保護者のアンケート結果を見ると、「家庭学習がうまくできていない」という意見が多く見られた。
 - 授業の中に体験的活動や交流活動を取り入れていく。
 - ・ いろいろな大人が関わっていただければいいかなと思っている。いつも同じ先生ではなく

て、地域の方に入っただいて教えていただく機会が刺激になり、いろんな価値観にふれることができるのではないかな。

◇ 地域や社会とつなぎ、多様な人々との心の交流を通して、豊かな人間性や社会性を育む。（徳）

- 総合的な学習と生徒会活動の充実を図っていく。
 - ・ 総合的な学習の時間 … 国際理解教育の視点から実施する。
 - ・ 生徒会活動 … 地域貢献ということを考え充実させていきたい。昨年度からの取組ではあるが、さらに発展させていきたいと思う。
- “大玉プライド” = 自己有用感の向上
 - ・ 「大玉のことが好きだ」という子どもたちを育てたい。教える私たちも大玉のことを誇りに思い、全校をあげて“大玉プライド”の意識化を図る取組をしていく。
- 自他のよさを認め合う人権教育・道徳教育の推進
 - ・ 本校はかつて研究推進校であった。その成果を生かして取り組んでいきたい。



◇ 健康的な生活習慣の確立に向けた健康マネジメント力の育成と体力向上に取り組む。（体）

- 基本的な生活習慣の確立に向けた家庭への啓発・連携強化
 - ・ 保護者のアンケート（家庭での子どもの生活）によると、「なかなか起きない」、「いつまでも寝ない」、「ご飯を食べない」、「いつも携帯ばかりいじっている」、「テレビばかり見ている」等の意見が多くあり、子どもの家庭生活に対する評価がかなり低かった。今年は、保護者の方たちと一緒に、子どもたちの生活習慣の見直しを図りながら、基本的な生活に目を向けて取り組んでいかなければならない。
- 新体力テストの結果に基づく体力づくりプログラムの推進
 - ・ 体力テストの結果がかなりよくないので、体力づくりについて授業や部活動等で全校でできないかと考え、今取り組んでいるところである。
 - ・ 体力づくりには食の部分が大きく関わっているので、食育を中心に肥満率の低下に向けた指導をしていく。
- 防災教育・安全教育
 - ・ 特色ある実践ができないか検討中である。コロナによっていろいろと制限があり実施できない場合もあるのだが、そこを工夫しながら、全くやらないのではなくて別の形でできないか教員の英知を結集しながら実施していこうと考えている。

◇ 社会に開かれた教育課程を実現し、地域と共に歩む学校づくりを目指す。

- 土台としては、情報を発信していくことに努めていかなければならない。
- “おおたま学園の取組を生かした一貫性ある教育”というのが特徴であるので、もう一度学校の教育活動を見直し、連携強化を図っていく。
- “ウィズコロナ”ということで、いろんなコロナによる影響が大きい教育活動が多い。「まずはやってみよう」、「何とかやろう」、「やれるところを見つけていこう」という思いで、例えば先日授業参観を実施したわけだが、「やらないのではなくてやろう」「やるためにはコロナとどう向き合って感染防止に努めるか考えよう」等のような発想で今年1年をスタートしたところである。

今年もCS委員のみなさんの知恵をお借りしてながら取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いたします。

② 大山小学校

(校長 齋藤 和久)

ア 学校経営・運営ビジョン等について

“めざせ 夢に向かってがんばる子”という本校の教育目標を実現させるために、次のような取組をしていくということを前提としながら学校経営を進めていきます。(年度当初教職員にも説明)

- 夢を見つけることは大変である。まず、子どもに夢や希望、憧れを持たせるような教育活動・授業・取組をしていく。また、そういった子どもを育てるためには、家庭教育も重要であるので、保護者の方の悩み等考えをよく聞いて、寄り添えるような関係性を築いていきたい。
- 児童に夢を持たせたり、憧れを抱いてもらったりするためには、先生方自身が生き生きとした姿を見せていなければ実現できない。先生方自身が学校生活を楽しんだり、私生活を充実させたりして、それをいい授業実践に生かしてほしい。いい授業を作るために外の世界を見てほしい。また、子どもたちに胸を張って「大山小は最高です!」と言えるためには、教職員が不祥事を起こしては絶対いけないので、十分気をつけていきたい。運営ビジョンにあるような取組を一つ一つ丁寧に行っていく。
- この1ヶ月の中で、保護者の方からご意見や問い合わせをいただいたこともあったのだが、それに先生方はきちんと向き合ってくれた。地域の方々はきちんとやっていたら応援してくださることは間違いないので、私たちは今やっていることに自信を持って取り組んでいくよう先生方とも確認し合っている。
- 大山小はいいスタートを切れていると思う。これからもいろんな波があると思うが、先生方と共通理解を図りながらしっかりと対応していきたいと考えている。



イ 今後のCS委員会の熟議について

先生方はいろんな学習活動を行う際に「こういう授業をしたので、こういう方をお願いしたい」と要請し、すぐに手配していただいて順調に取組ができています。私が今までいた学校ではこういうことがなかったので、大玉村のこれまでの取組のいい部分をこの1ヶ月で見させていただいている。

ただ、先生方とCSの距離感があるように感じている。助けてもらっていることはありがたいと思っていながらも、やはり心の中のどこかに負担感があったりするのではないかなと思うことがあるので、そういった距離感を縮めていくことが必要ではないか。先生方が地域の方々と一緒になって子どもたちの教育に当たっていけるようにしていくためには、(このCS委員会と関わる場面が年に1回はあると聞いているが)何か手立てはないものかと感じることもあるので、その方策を考えるといいと思う。

③ 玉井小学校

(校長 佐藤 則之)

ア 学校経営・運営ビジョン等について

- 本校の教育目標は「自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども」である。この教育目標を拝見した時に、すごくいい教育目標だなと思った。“自分が住んでいるふるさとに誇りをもち、愛する”というのはとてもとても大切なことなんだけれども、なかなかそれを意識した教育活動が学校でできているんだろうかとずっと思っていた。玉井小だからできる教育活動、同じ大玉村でありながら大山の子どもではなくて玉井だからできる活動、それがあはずだというふうに思っている。だから、「自ら学ぶ子ども」の実現に向けて、教科横断的な学習を通して地域の自然や文化や人等、そういう「ひと」「もの」

「こと」にふれながら学ぶことを大事にしていきたいと思っている。

- 本校は14学級ある。実は14学級のうち（昨年度と）担任が替わったのが11学級であった。担任が替わらなかったのは3学級だけだったのである。また、他管内から転入した先生方も多い。ということは、私も含めて大玉村のことをまだまだ知らないと言える。知らない中で、ふるさとを大切にするような教育を展開していこうとした時に、当然地域の方々のお力添えが必要になってくるので、ぜひそういう声を学校に届けていただいて、「学校でこんなことをするととってもおもしろい勉強ができるんじゃないの？」等アドバイスいただければありがたいと思っている。
- 本校の重点として“自分たちマネジメント力”があげられているのだが、簡単に言うと“子どもたち自身が、自分で決めて、自分で考えて取り組む”という機会をとにかく意図的につくってあげたいということである。ともすると、私たち大人は「子どもたちのために」ということで、（これは先生方によく言うのだが、）“あれもこれもしてあげること”、“あれもこれも準備してあげること”が子どもにとってプラスになると信じて行うのだが、実はそれが子どもたちに伝わっていないことがある。子どもたちに話を聞くと、「だって先生が言ったんだもの。」「だってお家でこういうふうに言われたんだもの。」「だって今までそんなんだもの。」と答える。「あなたはどうしたいの？」と尋ねると無言になってしまう子どもたちが多いような気がする。しかし、それってどうなんだろうか。今自主性とか主体性とか言われている。やはり、そういう芽を少しでも育てていくためにはどんな種まきをしたらいいのか、日々子どもたちとどう関わっていけばいいのか等が重要と考える。これについては、日々先生方と話し合っている。
- 例えば、5月21日に開催される運動会であるが、先生方が職員会議に提案してきたのは当然今までの運動会のやり方だった。子どもたちも何の迷いもなく、5、6年生は120m走、団体種目はこれというふうに、「こんなものだと」思っている。でも、そこにワンクッション入れてあげると子どもたちはいろいろと考えるのではないかと思い、様々な働きかけを試みた。



「種目の選定を子どもたちに考えさせてみたら？」

「スローガンを子どもたちに考えさせてみたら？」

「運動会で使う曲は何で先生が決めるの？子どもたちに聞いてみたら？」等々。

6年生が校長室に来て「校長先生、運動会で使うCDなんですけど、これを買ってもらえませんか？」と言ってきた。私は、すごくいいことだなあと考えた。実は、前日職員が「校長先生、今年の運動会はこのCDを使いたいのです…」ということで起案してきた。「子どもに聞いてみた？」と尋ねると聞いていないという返答であったので、子どもに聞いてみるよう促した。子どもが選んだCDは全く違うものだった。どうしてこれを選んだか聞くと、「だってこちらのCDの方が僕らの知っている曲がいっぱい入っているんですよ。こっちの方が絶対いいですよ。おもしろいですよ。盛り上がりますよ。」と言っていた。

こういう機会を一つでも二つでも子どもたちに設定してあげることが、自分のふるさととか自分の夢とかを考えるきっかけになるのかなと思って、少しずつ進めていきたいと思っている。抜けている所は多々あるかもしれないが、ご意見をいただきたいと思う。

④ 大山幼稚園

(副園長 二瓶 博子)

幼稚園は、大山幼と玉井幼合同で話し合いました。大山幼の今年度の取組について説明します。

ア 学校経営・運営ビジョン等について

- 大山幼は3年保育ということで、3歳児から言葉を大切に今年度も育てていきたいということをお話し合った。特に、年長組では“わくわくThinkingタイム”を年間計画に位置づけ、非認知能力の獲得のためのトレーニングの場をつくっていくことに力を入れていきたい。
- 大玉村では絵本（読書）に力を入れているので、6月のふれあい参観日に講師をお呼びして、絵本に関する活動をお願いする予定である。親子読書につなげていきたい。
- 食育に力を入れたい。お便りなどで周知し、苦手な野菜を保護者といっしょに少しでも食べられるように、楽しい会食ができるように、野菜について地域の方々のいろいろなお話を聞きながら食育の活動を進めていく。



イ 今後のCS委員会の熟議について

- 散歩コースの見直し～地域との交流
 - ・ 地域にぜひ園児の頑張っている様子を知らせていきたいので、散歩コース等も見直していきたい。

⑤ 玉井幼稚園

(副園長 後藤 弥和子)

ア 学校経営・運営ビジョン等について

- 園長先生から話があった通り、“主体的”というのは小さい頃から積み重ねていって培われるものと改めて思ったので、幼い頃から主体的に自分たちで考えて行動できる子どもたちを育てていきたいと思った。
- 今年度の運営ビジョンにも「主体的に活動する意欲の育成」をあげている。その中で「②一人一人の成長を認め、子に応じた支援の充実」に頑張っており取り組んでいきたいと思っている。そして、遊びの中から子どもたちの発見（見つけたり、試したり、工夫したりする活動）を取り上げて、その子どもたちの遊びの充実、発達の充実というところを取り上げて進めていきたい。
- おおたま学園で読書活動推進委員会を立ち上げた。読書活動の充実のために本年度から絵本の貸し出しカードを作ったり、親子のふれあいタイムや絵本の活用等を充実させたりすると共に、絵本への興味・関心を高めていきたいと思っている。
- 「友だちと生活する楽しさを味わう」、「協力して活動する楽しさを味わわせる」について重点的に取り組んでいく。



イ 今後のCS委員会の熟議について

- 散歩コースについて
 - ・ 近く、またはスクールバスを使って行くような所でもいいので、お花とかを自由に摘んで持って来れる場所等を教えていただきたい。
- 絵本の寄贈についてはどうなのだろうか。
- 保護者の横のつながりを深める方法を探る。
- 毎年CSで出された課題について詰めていくプロジェクトチームをつくる。
 - ・ 例えば、健康・遊び・得意分野等について動ける人が集まって、こんなふうにしていったらいいのではないかと等話し合う場をもつ。

(5) 全体共有

(座長) ありがとうございます。全体共有ということで、今の報告を受けて確認しておきたいことや共通理解を図りたいこと等あれば出していただきたいと思います。

年度末に反省としてまとめた資料の中にもいろいろ書かれています、「課題は出ているが、それに対して一歩進んだ話し合いがなされていなかったのも、今年度はさらに一歩進めて熟議をしたい」という意見もありました。

熟議と言いますと7月5日(火)と12月12日(月)の2回があります。この2回に何をテーマに話し合うのか、こんなテーマがいいのではないかとという提案があれば出していただきたいと思います。今日は時間が限られておりますので、後は事務局と詰めていきたいと考えています。いかがでしょうか。

(浅和委員) 先程先生方からもお話があったのですが、幼・小・中で一貫性をより生かすにはどうしたらいいか等そういった部分がおおたま学園らしさにもつながってくるのかなど…。そういったことから、「一貫して何を重点的に取り組むか」について検討して取り組んだらいいのではないかと思います。

(麻生委員) 先程のプロジェクトの話については私も意見として出したのでよく考えてお話ししたいと思います。

もう一つについてですが、私は保護者であってCSにも参加できてすごく勉強になっていると思っています。ただ、多くの保護者はこういった子どもについて熟議をするという経験がないと思うんですね。自分の家庭では(子育てについて)悩んでいるけれども、参観日の時にちょっと学級懇談で共有するような感じだけで…。

保護者がCSの話し合いを何とかして体験できないかと思っています。参観日に似たようなことをやったことはあるのですが、(CS委員会に)参加して、地域の皆が子どもたちをこんなふうに支えているんだよということを保護者に知ってもらいたいですよね。そうすれば、家庭でも考えが全体的に変わってくるというか…。「皆が子どもをこんなに大事にしてくれているんだな」、「自分の子も大事にしなくちゃな」、「そのために考えを変えなくちゃな」と変わってくると思うんですね。

CS便りで知らせるだけではなくて、(保護者)皆でなくてもいいので、体験する機会がほしいと思っています。

(座長) 今日みたいな時に後ろの席で見てもらうとか。希望者を募って見てもらうという感じですかね。

(渡邊指導主事) 忙しくても家庭でも見ることができるので、Zoomを使って中継するのも一つの方法かと思います。ただ、いろいろ問題はあるのかも知れませんが…。

(座長) CSはまだ浸透していない

部分がありますので、今後検討していただくのもいいと思いますし、多くの方々に見ていただくのは非常にいい考えであると思います。今お話をお聞きして、先生や保護者の方々



にCSの取組を知っていただくいい機会になるのかなと感じました。その他ございますか？なければ、まとめさせていただきます。これで協議を終了いたします。ありがとうございました。

8 連絡事項

(指導主事 佐久間 葉子)

(1) おおたま・オータム・フェスタについて

<資料に基づき概要説明>

- ・今年度も資料の通り実施したい。(昨年度作成した計画。各校園の負担を減らすことにつながる。)
- ・活動内容について…問題点を踏まえて、おおたま学園(各部)で協議する。(原稿作成5/30～6/17) → 7/5(火)第3回CS委員会で実施案検討 → 7/28(水)おおたま学園で細案検討(教職員と教育委員会職員の合同会議)
- ・CS委員の所属希望票の提出(本日中)

(2) その他

- ・記録(各園・各校の意見交流)の提出について

9 閉会の言葉

(おおたま学園CS委員会副会長 吉田 都)

皆さまお疲れさまでした。令和4年度第1回おおたま学園CS委員会をこれで終わりにしたいと思います。今年度も1年間お世話になりますが、よろしく願いいたします。以上です。お疲れさまでした。